

天草の海の施設を訪ねてみよう！

天草・海施設探訪 番外編「荒尾干潟水鳥・湿地センター」

- 対象年齢：幼児～大人
- 実施場所：荒尾干潟水鳥・湿地センター（熊本県荒尾市蔵満 20 番地 1）
- 開館日時：火曜日～日曜日 9 時～17 時
- 休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日）
- 見学所要時間：30 分～2 時間程度
- 予約：不要。事前予約でスタッフやボランティアガイドによる館内の案内がある。
- 入館料：無料
- 海洋教育の 12 分野：B 観光・レジャー・スポーツ、C 文化・芸術、D 歴史・民族、G 生命、H 環境・循環（海を知る）

●施設概要

荒尾干潟水鳥・湿地センターは、熊本県北部の荒尾市にある荒尾干潟の価値や魅力を発信する施設です。平成 24 年にラムサール条約湿地に登録された荒尾干潟の利用拠点施設として、環境省が整備し、荒尾市が運営を行っています。荒尾干潟は、有明海の中央部東側に位置し、干潟面積 1,656ha ある、国内有数の広さを誇る干潟です。海苔の養殖も行われ、毎年夏に開催される荒尾マジック釣り大会（マジックはアナジャコ



荒尾干潟水鳥・湿地センターの外観

はアナジャコの地方名)には多くの方が訪れます。国内のラムサール条約湿地の中で、環境省が整備した干潟水鳥・湿地センターは 10 箇所あり、荒尾干潟水鳥・湿地センターは 11 箇所目、九州本土初として、令和元年 8 月にオープンしました。誰でも無料で展示を見学することができます。

●学びのポイント

・荒尾干潟の自然環境の成り立ちや漁業との関わり、ラムサール条約の基本理念である湿地の保全と懸命な利用について学ぶ。

●施設見学の流れ

1. 受付

団体の場合は事前予約することで、ガイドツアー、講座、生物観察などを要望に応じて実施してもらうこともできます。

2. 展示見学—荒尾干潟全体の魅力を知る

入館してすぐ、床には有明海の衛星写真があり、天草との位置関係を確認することができます。入ってすぐ左手には、泥干潟の環境をそのまま再現した大きな干潟水槽が出現。この日、生きたトビハゼとムツゴロウを観察することができました。他にも季節の魚などの水槽展示、水鳥の紹介コーナーもあります。壁の展示では、荒尾干潟とラムサール条約のことが分かりやすく解説されていました。

3. 展示見学—荒尾干潟の食を知る

干潟グルメ紹介コーナーでは、荒尾の郷土料理である干潟グルメが紹介されていました。マジックの天ぷら、ワキヤのひこずり（イソギンチャクの味噌炒め煮）、巻き寿司、クツゾコの煮付けなどなど。お皿の下には二次元コードがついていて、テーブル中央にお皿を乗せると、パソコンに食材の紹介が表示されました。調理用のレンジとシンクもあり、食のワークショップを実施することもあるそうです。干潟の恵みを食で伝える、というのは素敵ですね。



入ってすぐにある干潟の生態展示。トビハゼとムツゴロウが元気に飛び跳ねていた



荒尾干潟の食コーナーでは、荒尾干潟の郷土料理である干潟グルメが紹介されている



お皿の裏にある二次元コードでPCにレシピ情報が表示される

4. 展示見学—マジック釣り体験

荒尾干潟の漁師コーナーでは、海苔養殖やマジック釣りなどの荒尾干潟の漁業の営みが紹介されています。マジック釣りの疑似体験コーナーがあり、バケツの中に入っている筆を手に取り、巣穴の中に入れてみると、マジックが簡単に釣れました。夏になると、実際に干潟でマジック釣りを体験することもできるそうです。センター前の荒尾干潟を望むと、冬場は海苔養殖の様子も見ることができ、荒尾干潟では海苔の養殖やアサリ漁、マジック釣りなど漁業が盛んことがよく分かります。



マジック釣りの疑似体験ができました

5. ビデオ・塗り絵コーナー

ビデオコーナーでは、荒尾干潟について紹介されたビデオを自由に視聴することができます。また、干潟の泥を使って塗り絵やお絵かきができるコーナーもありました。思い思いに描いた作品が壁にたくさん展示されています。



干潟の泥の塗り絵コーナー

6. 展示見学—2階ギャラリーゾーン

2階の展示スペースでは、海苔養殖と漁業の展示があります。中でも目をひいたのはタイラギ漁の漁具の展示。ヘルメット式潜水器を身につけ、水深10～20mほど潜り海底にいる二枚貝のタイラギをとっていたそうです。企画展示のコーナーもあり、伺った時は荒尾干潟の海苔養殖の企画展が行われていました。また研究ポスターも掲示されていて、荒尾干潟の最新情報を入手することができます。2階の眺望コーナーでは、望遠鏡で荒尾干潟の水鳥などを見ることがもできます。



2階のタイラギ漁の漁具の展示

●荒尾干潟保全・賢明利活用協議会

荒尾では、荒尾干潟保全・賢明利活用協議会が組織され、この作業部会に2021年3月現在、25名ほどの市民がボランティアで活動しています。作業部会では、野鳥班、ベントス班、植物班がそれぞれ勉強会を行い、ガイドブックを作成するなど、積極的に活動しています。またセンターがオープンする前から、ガイド養成講座が開かれ、市民ガイドが団体向けにガイドを行っています。

センターでは定期的に干潟体験イベントも企画されています。その目玉の一つが「テラーでの干潟体験会」。昔は海苔養殖等の漁具として荒尾干潟で活用されてきた耕うん機(荒尾干潟ではこれをテラーと呼ぶ)を、干潟体験会に活用してはと使い始め、好評だったことから、センターでテラーを2台購入し、その後毎年テラーを活用した干潟体験イベントを開催しているそうです。また工作ワークショップも開催され、市民ボランティアが活躍しています。



ガイドとジュニアレンジャーのジャンパーが展示されていた



入り口に止まっていたテラー。干潟観察会の際に使用する。

●施設 Data

荒尾干潟水鳥・湿地センター

住所：〒864-0027 熊本県荒尾市蔵満 20 番地 1

TEL：0968-57-7444 HP：<https://www.city.arao.lg.jp/q/list/537.html>

Facebook：<https://www.facebook.com/araohigata2019>

天草・海の冒険サポーターズテキスト

天草・海施設探訪 番外編「荒尾干潟水鳥・湿地センター」

■発行：天草海部 ■企画・制作：浪崎直子・正角雅代・野間英樹 ■執筆：浪崎直子

■取材協力：荒尾干潟水鳥・湿地センター

※本テキストは、2020年度地球環境基金の助成を受けて作成しました。

※本テキストでは、オリジナルを改変しての利用、有償配布、素材の流用を禁止します。